

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2022-11-01

No. 147



株式会社 コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地-1

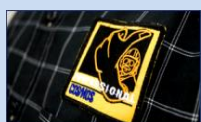
<https://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全

目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary.....	2
EU: エコデザイン指令の現状と、今後の方向(持続可能な製品政策)(2/3).....	3
IEC: 新規格リスト.....	6
ISO: 新規格リスト.....	10
UNECE: 車両規制調和世界フォーラム第 187 セッション報告書(3/3).....	11
国際テーマ: IEC: 家庭用および類似用途の電気機器の規格マップが公開.....	13
国際テーマ: EU: 消費者製品におけるレーザーの安全性に関する新しい欧州規格.....	14
国際テーマ: EU: スマホ/タブレットにもエコデザインおよびエネルギーラベリングを要求.....	15
国際テーマ: Nemko ドイツ, DAkkS より機能安全性に関する試験および評価に認定を取得.....	16
国際テーマ: サウジアラビア: アジア等からの輸入製品に対する NEMKO 承認の範囲拡大.....	16
国際テーマ: 日本の Wi-Fi 周波数帯の規制が改正.....	17
USA: FCC: KDB: ワイヤレスマイクロホンの承認は、どんな手続きに従うべきか?.....	18
USA: CPSC: e スクーター、e バイク等の事故死が増加中 リチウムバッテリーにも要注意.....	18
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知.....	19
USA: FDA: 医療機器の市販前申請のオンラインでの申請および追跡: CDRH ポータル.....	20
USA: FDA: 医療機器のユーザー費用改正 (MDUFA).....	21
USA: ANSI/UL: 新規格リスト.....	21
USA: IEEE: 新規格リスト.....	22
カナダ: SPR-002 — RSS-102 への適合性を評価するための補足手順: 人体曝露.....	23
カナダ: RSS-139 — 1710~1780MHz 帯等で作動する高度ワイヤレスサービス機器.....	24
カナダ: RSS-236 — 26.960~27.410MHz 帯(CB)で作動する一般無線サービス機器.....	24
EU: 欧州標準化システムのガバナンスおよび完全性を向上させるための政治的合意を歓迎.....	26
EU: ゼロエミッション車両: 2035 年までにヨーロッパでの新 CO2 排出車の販売を終了に.....	27
EU: エネルギーシステムをデジタル化することに関する EU 行動計画: QAA.....	28
UK: 英国: 機械に関する指定規格リストが更新: EN 619:2002+A1:2010 に制約が追加.....	29
EU: CENELEC: 新規格リスト.....	29
EU: ETSI: 新規格リスト.....	32
オーストラリア: AS/NZS 新規格リスト.....	32
中国: SAMR: 強制性製品認証を実施しない一部の電気・電子機器製品: 侵入検知器等.....	33
中国: CNCA: 家庭用等の機器用ケーブルへの強制性製品認証規格などの要求を明確化.....	34
中国: CQC: スイッチング電源用トランスの新規格ならびに実施規則の施行に関する通知.....	35
中国: CQC: 機器用スイッチの安全認証への新版規格と実施規則の施行に関する通知.....	36
中国: 新規格リスト.....	36
台湾: 「電気車両用給電設備の検定・検査技術規範」を改正し、2023/1/1 より施行.....	37
台湾: 「蛍光灯エネルギー効率ベンチマーク表示及び検査方法」を改正 2023/7/1 より施行.....	38
台湾: 「検査対象の紫外線消毒(殺菌)電気製品の関連検査規定」の制定案に関する通知.....	38
台湾: 新規格リスト.....	39
韓国: 「簡易無線局等その他の業務用無線設備の技術基準」の一部改正(案).....	39
韓国: 電気自動車充電器の技術基準の改正に関するお知らせ.....	40
総務省: 情報通信審議会 電波利用環境委員会(第 52 回) 配付資料: CISPR 会議対処方針.....	41
総務省: 「自動的に又は遠隔操作によって動作する簡易無線の技術的条件」—意見募集—.....	41
経済産業省: 日本産業規格(JIS)を制定・改正しました(2022 年 10 月分).....	42
国土交通省: 排出粒子数の基準を導入〜道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等〜.....	43
国土交通省: 送迎用バスの置き去り防止を支援する安全装置の仕様を検討.....	43
国土交通省: ICT 施工の中小企業等への普及拡大に向けて ICT 建設機械等の認定を開始.....	44
国土交通省: トヨタ「ヴォクシー・ノア」がファイブスター賞を受賞!.....	44
ちょっといっぴく〜小クイズコーナー FCC Part 15 のワイヤレスマイク モジュール証明.....	17
コスモス・コーポレーション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内.....	25
社長の独り言.....	45



EU: エコデザイン指令の現状と、今後の方向(持続可能な製品政策)(2/3)

- EUによる「持続可能な製品政策・エコデザイン」ページから、欧州エコ政策に関し、今までの過程、エコデザイン指令現状、今後の更に進化した取り組みの意図、そして、今後の取り組み内容を報告する。

USA: FCC: KDB: ワイヤレスマイクロホンの承認は、どんな手続きに従うべきか？

- 米国 FCC のナレッジデータベース (KDB) にて、「ワイヤレスマイクロホンの承認は、どんな手続きに従うべきか？」という質問と答えに関して、内容が更新された。
- ワイヤレスマイクロホンに関してパート 15 のモジュール証明は認められないとされた。

USA: FDA: 人工知能・機械学習(AI/ML)対応医療機器のリストアップ

- 人工知能および機械学習対応医療機器 178 種が FDA のリストに追加された。
- 近年、ML 機能を搭載した医療機器への関心が高まっている。過去 10 年間、FDA は、様々な医療分野において、ML を搭載した合法的に販売される機器を審査・承認してきた。これら機器のリストを提供する。

EU: 欧州標準化システムのガバナンスおよび完全性を向上させるための政治的合意を歓迎

- 欧州の標準化について定めた規制 (EU) No 1025/2012 の改正に関して、欧州議会と EU 加盟国との間で政治的合意に達した。
- この改正で予測されることは、欧州委員会がこれらの機関に規格を要請する場合、規格開発プロセスにおける重要な決定は、EU および欧州経済領域 (EEA) の国家標準化機関が行うということである。これらの国家標準化機関は、バランスのとれた利害関係者との協議、および EU の価値観に対し相応の敬意を表した包括的プロセスを保証するために、最も適した立場にある。ETSI、CEN、CENELEC 等に対する EU の姿勢、そこでの規格制定活動の変化が、予測される。

EU: ゼロエミッション車両: 2035 年までにヨーロッパでの新 CO2 排出車の販売を終了に

- 昨夜の欧州議会と理事会による「欧州で登録されるすべての新車とバンが 2035 年までにゼロエミッション(EV 電気車両、燃料電池車両)になることを保証する合意」を歓迎。

UK: 英国: 機械に関する指定規格リストが更新: EN 619:2002+A1:2010 に制約が追加

- 2022 年 9 月 22 日付けで、機械に関する指定規格 (designated standards) のリストが更新され、EN 619:2002+A1:2010 の使用に関して制約が追加された。

中国: SAMR: 強制性製品認証を実施しない一部の電気・電子機器製品: 侵入検知器等

- 中国国家市場監督管理総局 (SAMR) は、必要性和最小化の原則に従って、強制性製品認証 (CCC 認証) の目録を調整した。
- 一部の電気・電子製品に CCC 認証が今後実施されなくなった: オーディオ・パワーアンプ、電子ピアノ、データ端末、マルチメディア端末、盗難防止警報コントローラ等。

国土交通省: 送迎用バスの置き去り防止を支援する安全装置の仕様を検討

- ヒューマンエラーを補完する置き去り防止を支援する安全装置の仕様を検討します。

社長の独り言

2022年10月19日

濱口 慶一

新型コロナウイルスの弱体化（？）でしょうか、コロナ禍が収まったという訳でもないと思うのですが、関係者の対策に対する考え方の変化で内外の移動制限が解除され、観光地が観光客で賑わう報道に観光業の回復を感じるようにはなりました。弊社では社員の直接感染はほとんどなかったのですが、ご家族から社員への感染というケースが少し出てきています。担当業務に関して、お客様にご迷惑をかけることのないように、社長としては体制をしっかり整え、コロナ対策に今以上に取り組んでいきます。

一方、ロシアのウクライナ侵攻からの戦争によるさまざまな影響が経済界にも出てきています。特に弊社のかかわる製品安全認証取得の点から分析すると、現在の円安状況は日本製品を輸出されている企業には追い風ですし、人民元に関しても、幸いにも人民元の方が日本円に対してかなり下落しているのです。中国で生産して日本国内で販売する輸入企業にも対中国からという面でも追い風だと思います。ただ、中国に関しては、政治的な影響が今後大きく出てくるように思います。

さて、社長業のかたわら、国立長岡技術科学大学の大学院工学研究科修士課程システム安全工学専攻で学業に励んできましたが、無事終えられそうなところまでできました。修士論文を何とか指導教員のご指導に沿って書き上げれば卒業できそうです。なぜ 73 歳にもなって大学に？と多くの方から質問を受けてきましたが、一度も私としての本当の答えを言いませんでした。（申し訳ありません）ですが、今回はお伝えしようと思います。

最近の ISO/IEC 規格の多くに“妥当性”という言葉が多く出てきます。その妥当性という言葉に関して、この製品安全業界に居させていただいてきた 40 余年間、“私が製品安全にかかわっている妥当性は？”と自問してきましたが、長岡技科大の学生になる前までは明確に答えることができなかったといえます。UL 申請、CSA 申請、TUV を通じた CE マーキングに中国の CCC マークなど、多岐にわたってお客様のお手伝いをさせていただき、製品安全規格の判断や評価手法に関しては、そこそこ技量を身につけたというところまでは来ていると思います。しかしその一方で、スタッフや後継者に適切な教育ができていたのかと問われると、答えに窮するというのが正直なところでした。そこで、自ら教育を受ける側になり、その経験を後進への指導に生かすことが“妥当性”につながるのではと思ったのです。

私に続いて長岡技科大に入学した社員や、近くの三重大での博士号取得を目指している社員がいること、そして何よりも業界の方々の後押しで、新しい IEC 規格の制定への参加や、IEC ワーキンググループの委員に 3 名も送り出すことができたことを嬉しく思います。以前から紹介している書籍“我が国の第三者検査機構を語る”にある、政界、経済界から求められている“第三者検査機構”に成長できるよう、社内改善を進め、お客様をサポートしていきますので、何卒、今まで以上のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

● ニュースレターの内容

本誌は、**EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation)** 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU 及び UK, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び米国・欧州・中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

● 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレーション CS 部 (カスタマーサービス部) まで Yamashita-jun@cosmos-corp.com
Tel 0598-30-5225 Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

● 本誌の内容案内、ご購入案内は、<https://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレーションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO: European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC & 安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2022-11-01 (No. 147)

発行所: 株式会社 コスモス・コーポレーション 本社・松阪事業所

住所: 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地 1

ホームページ: <https://www.safetyweb.co.jp/>

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉口光雄

iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2022 株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。